

2016 年夏

自然の中で
はじけよう!!!



大阪自然教室

〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-6-36-308

TEL : 06-6372-1561 (木曜日夜のみ)

Web : <http://osakashizen.org/>

ひんや川で、ひとあはれ

「鳥取自然教室」募集要項

日 程：第一期 8月14日(朝)～8月18日(夕)

第二期 8月18日(朝)～8月22日(夕)

募集対象：小二 ～ 小六

募集定員：各期20名(先着順)

募集期間：6月15日～7月12日

参加費：¥29,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：鳥取県鳥取市河原町西郷地区の民家



楽しい夏休み、暑いからといってクーラーのきいた部屋でボーッとしているのはもったいない！さあ、鳥取に行って遊ぼうよ！！

晴れた日には冷たい川で大はしゃぎ。タイヤの浮き輪に乗って、急流すべりをするのは最高だね！それに、高い岩から勢いよく飛び込むのもスリル満点、とても気持ちがいい！魚を見つけたら、頑張って手づかみで捕まえてみよう。もし捕まえたなら君はヒーロー！

新しいフィールド・鳥取市河原町西郷地区を流れる曳田川は、去年までの智頭の川よりももっとダイナミック！スリルある飛び込みができる深い淵や岩すべりの場所があちこちあるんだ。

雨が降ってもお楽しみはあるよ。竹細工や小枝細工のクラフトにチャレンジしよう。家の人へのおみやげに作るのもよし、自分のために作ってもいい。いくつ作るかは君のアイディア次第。

仲間とリーダーと遊んでたら、あっという間に時間はすぎていく。遊びつかれたら、おいしいご飯をもりもり食べよう。だれだい！

「野菜はキライだ！」なんていっている子は。近所のおばさんたちにいただいた、とれとれの野菜は都会のスーパーの野菜とはひと味もふた味もちがうんだよ。キュウリやトマトを丸かじりしよう！

夜はカエルの鳴き声を聞きながら、夜空に散らばる星をながめて一日の疲れをいやそう。流れ星を見られなくても、星空をながめているだけで幸せさ！それくらい河原・西郷の星はきれいなんだ。

自然がいっぱいで、最高の四泊五日が待っている。仲間とリーダーたちと一緒に、ステキな夏の思い出を作ろうよ！

命めぐる川端のある暮らし

「生水の郷自然教室」募集要項

日 程：7月29日(朝)～8月1日(夕)

募集対象：小二 ～ 小六

募集定員：15名(先着順)

募集期間：6月15日～7月12日

参加費：¥22,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：滋賀県高島市新旭町針江“体験処”



琵琶湖の西にある生^{しょうず}水^{さと}の郷^{はりえ}・針江では水があちこちで湧き出ているので家々には「川端^{かわばた}」がある。湧き出した水が最初にたまる壺池^{つぼいけ}の水は飲み水や顔を洗うのに使う。ここで冷やしたトマトやキュウリは格別においしい！壺池^{つぼいけ}からあふれ出た水がたまるはたいけ^{はたいけ}端池では、お米を洗ったり食後の洗いものをする。ご飯^{ごはん}つぶや野菜^{はたいけ}くずは端池で飼われているコイが食べてくれる。さらに端池は水路と通って針江大川となり、琵琶湖へと流れ込む。

針江大川にはきれいな水でしか育たない梅^{ばい}花^{かも}藻の白くて可愛い花がゆれて、琵琶湖からのぼってきた小アユの群れが泳いでいる。みんなで力を合わせて追い込むと、反対側のアミにはもうアユが入ってる！タイミング良くアミをあげないと、逃げられてしまうぞ。そうそう針江大川の藻の中に手を入れて、大物の魚の手づかみにも挑戦しよう。指先をかすめた魚の感触におどろかないでサッとつかめるかな？そう、とった魚を全部さばいて食べるのが針江でのお約束。おもしろいほど魚がとれるからといって、とりっぱなしはナシだ。魚をさばくのは、最初はちょっと勇気がいるかな？

針江では、昔から年4回針江大川や河口の舟着き場の藻刈りをし、冬は琵琶湖湖畔のヨシ刈りをして環境を守っている。毎年行っている自然教室の分担場所はお寺の池。今年も池に侵入した外来種・オオカナダモをとるのをお手伝いします。

真っ赤な太陽 青い空

「祝島自然教室」募集要項

日程：8月6日(朝)～8月10日(夕)

募集対象：小四～小六

募集定員：18名(先着順)

募集期間：6月15日～7月12日

参加費：¥38,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：山口県上関町祝島の民家



自分たちでとった魚と野菜、生水の水で炊いたご飯を食べたら、もう幸せいっぱい！毎日楽しいことがたくさん待っている。照りつける太陽とキラキラ光る海、もちろん、泳ぐしかない。水中ゴーグルを持って、さあ、海に出かけよう！潮が満ちている時には、東の波止場の高い防波堤から飛び込もう！ちょっと高さがあるから最初は勇気があるけど、仲間に励まされて一度飛び込めば、もう病みつきになること間違いなし。引き潮の時は磯に行こう！磯には貝、カニ、ウニ、タコなど、海の生き物がたくさんいるよ。

祝島の集落は北に固まっているけど、足をのばして反対側の三浦湾にも行ってみよう。ここの海岸は珍しい粒ぞろいの小石の浜。三浦湾に面した棚田は、人間の背よりも高く積まれた石組の棚田が何段も重なり、本当に天まで昇るっているようだ。棚田には耕作をやめた放棄田が増えているが、そこの氏本農園に行ってみよう。氏本さんは放棄田にブタを放して、畑に復元している。ブタさんたちの働きぶりをぜひ見てみよう。(氏本さんは豚田兵と呼んでいる)

海で遊ぶことに疲れたら、「未来に残したい漁村の文化遺産」に選ばれた集落の中を探検しに行こう！台風の強い風をさけるため、瓦は白い漆喰で固められ、「練堀」と呼ばれる分厚い石垣に囲まれた独特の家々と海とが一体となった風景は、きっと君の心に強く焼き付くはずだ！たっぷり遊んでお腹が空いたら、ご飯の準備をしよう。毎日、食卓には漁師さんから差し入れてもらう新鮮な魚が並ぶ。どうやって食べたらおいしいかな。島のおばさんたちに聞いて、魚のさばき方も教えてもらおう。おばさんたちはスイスイと魚を三枚におろしていく。君にもできるかな？

沈下橋から飛び込もう

「四万十自然教室」募集要項

日程：8月6日(朝)～8月11日(昼)

募集対象：小六～中三(中学生優先)

募集定員：12名

募集期間：6月15日～7月12日

参加費：中学生 ¥45,000-(含登録料)

小学生 ¥39,000-(含登録料)

宿泊場所：高知県四万十市口屋内 口屋内公民館

子供会議：7月31日(日)午後1時半～4時



ジメジメ暑い大阪の夏にめげそうになったら、四万十に行こう！「日本最後の清流」と言われる高知県の四万十川は、そう言われる通り自然がいっぱいで本当にきれいな川だ。

別名「暴れ川」と呼ばれる四万十川が大雨によって増水すると、沈下橋は名前の通り濁流の中に沈下してしまう。その沈下橋からの飛び込みが『四万十』での最高のお楽しみ！工事中や増水でしばらく飛び込みができなかったけど、昨年4年ぶりに復活できた。今年も天気が良ければ君たちの出番だ！橋の上から4メートルくらい下の川面を見ると、あまりにも高く足がすくんでしまうかもしれない。何回かためらった後、やっとの思いで飛び込みに一度成功すると、二度目からは怖くなくなり、病みつきになること間違いなし！

一日は支流の黒尊川に行きたいね。黒尊川は魚が多く、本流よりもっと水が澄んでいるので、水に顔をつけるとすぐに魚を見つけられる。浮き輪での急流すべりも気持ちがいいんだよ。他にも、川で漁をしている漁師さんから昔の話を聞いたり、仕掛けを作って川に棲息しているカワエビを捕るのにも挑戦だ！

晩ご飯の後は散歩をしようか。大阪の騒がしい夜とは全然違う。四万十の川音と虫の声、キラキラと輝く満天の星空。そして、漁師さんたちがしている「火振り漁」が見えたら最高だね！

最後の日には朝早く口屋内を出発して、土佐佐賀で海水から天日塩を精製している「あまみ屋」さんを見学させてもらってから、近くの海岸に行き遊び、夜行バスで大阪に戻ってくる。

大阪自然教室 (sinse1973) のこだわりは“異年齢の子どもの群れでの育ち”

1973年、大阪の自然保護団体で活動していた20才前後の若者たちが、都市の子どもたちに自然体験の場を提供することを目的に活動を開始しました。会員時代（小学二年～中学三年）を終えた者たちがリーダーの七割ほどを占め、すべての企画・運営がリーダーたちの自己責任によって引き継がれ、今年度は43年目に入りました。

「子どもは異年齢の群れで育つ」をモットーに、こんなことをしているのを学校の先生やおとうさんおかあさんが見たら怒られるだろうな、といったヤンチャな時間と空間を子どもたちと「共に育つ」場として共有し、遊ぶ施設や道具がなくても仲間たちと創意工夫をして遊べばおもしろいぞ、と子どもたちと自然の中で遊んできました。自然を頭で理解するのではなく、自然のおもしろさ・楽しさを五感をフル動員して体感して欲しい、と願って活動を続けてきました。

もう一つ、命を支える第一次産業の農業や林業や漁業にこだわって企画を立てています。宿泊企画も野外活動センターや少年自然の家などの既存の施設は一切使わず、自然の豊かな所＝過疎地の山間地や離島に住むおじさんお婆さんたちの懐に飛び込み、農作業や山仕事などの生産活動をしている横におじゃまし、おじさんお婆さんたちにかまってもらいながら長年継続して同じ場所で活動してきました。活動場所が「こんにちは」と訪れる観光地でなく、子どもたちは「ただいま」と言い、おじさんお婆さんたちからは「お帰り」「今度はいつ帰ってくるの」と言ってもらえる“ふるさと”に、と願って企画しています。



大阪自然教室の夏企画の特徴は、小規模であること、そして活動地

大阪自然教室のこだわりから立案された企画の特徴は、企画は12～20名と小規模であること。また、基本的に子どもと行動するリーダーは子ども3・4名に1名、さらに賄いなど活動を支えるリーダーが配置され、初めての子どもに対してもきめ細かく対応できる体制です。

なんといっても最大の特徴は活動地です。現在、山間地や離島では急速に過疎化・高齢化が進んでいますが、いずれの地も住民が自らの力で地域を活性化させようという頑張っている所ばかりです。

特に、上関原発が沖合3キロの目の前に計画された祝島では、島の豊かな自然と原発は共存しないと、巨額の原発補償金を拒否して33年間島ぐるみで反対運動を続けています。国の後押しを受けた中国電力は、度々アセスメント調査を強行しようとしてきましたが、その度に祝島の人たちは力を合わせて阻止してきました。東北大地震のあと、まだ原発を作る動きがありますが、自然と共に生きる道を選択した祝島の人たちははね返しています。



写真家今森光彦さんが撮影したNHKのドキュメンタリー「里山・命めぐる水辺」で注目をあびた生水の郷・針江の人たちは「生水の郷委員会」を立ち上げ、行政に頼らず環境保全活動や地域づくりに取り組んで10周年を迎えた今年、環境庁のエコツーリズム大賞を受賞しています。

「鳥取自然教室」は、昨年までの鳥取県智頭町での宿舎が使用できなくなったため、鳥取市河原町西郷地区弓河内集落に移して初めて行います。地区を流れる曳田川は水量はさほど多くないものの、深い淵がいくつもある変化に富んだフィールドです。ここでも「いなば西郷むらづくり協議会」の方々が精力的に地域づくりに取り組んでいる魅力的な地域です。

大阪自然教室は交流を通してこれらの人たちと連携し、地域の活性化に少しでも役に立てたらと考えています。

夏企画の問い合わせは、西村（090-1149-4326）までご連絡ください。

**「鳥取自然教室」「祝島自然教室」「生水の郷自然教室」は
子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成事業です**